

上 八 万 小 学 校 総 括 評 価 表

		自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評 価		学校関係者の意見	
学校運営	(1)学校教育目標(学校経営方針)は、子どもや地域の実態にあっている。 (2)学校教育目標に向かって、学校運営をする。	評価指数と活動計画 ・保護者アンケートの「学校は、保護者や地域の願いにこたえた教育活動を行っている。」については、評価指数を90%以上にする。 ・上記の目標を達成するためには、学校の主体である児童が学校に来るのが楽しいことが前提となる。一人一人をよく見たきめ細やかな指導を心がける。	評価指数の達成度 ・保護者アンケートでは「学校は保護者や地域の願いにこたえた教育活動を行っている」と回答したのは93.0%であった。保護者や地域の願いにこたえた教育活動が概ねできたと考えている。 ・児童アンケートでは「学校に来るのが楽しい」と回答したのは88.8%であった。	総合評定 B	・学校運営協議会も平常に開かれるようになり、学校教育目標など、学校の考え等もよく分かった。	・本年度も教育活動については、児童の健康・安全に考慮して制限あるものになった。来年度は、児童の健康・安全を第一に考えながらも児童の願いに沿った教育活動を展開していきたいと考える。 ・学校が楽しいと思える児童が100%になるように、楽しくわかる授業はもとより、温かい人間関係づくりに努めていきたいと考える。
情報発信	学校公開や情報発信に努める。 (参観授業・オープンスクール・学年だより・ホームページなど)	評価指数と活動計画 ・保護者アンケートの「学校は、学校行事や子どもの様子などを、わかりやすく伝えている。」については、評価指数を80%以上にする。 ・マチコミメールやホームページを活用し、情報を迅速に伝えるようにする。 ・行事予定等は、可能な限り早い段階で正確な情報を提供する。	評価指数の達成度 ・保護者アンケートの「学校は、学校行事や子どもの様子などを、わかりやすく伝えている。」については、88.1%の回答を得た。 ・警報等の連絡及び周知内容等の情報については、マチコミメールやホームページを使い、タイムリーに伝えるように努めた。 ・行事予定等は、可能な限り早く保護者へは連絡できるように努めた。	B	・学校からの情報は可能な範囲で早くお知らせしていただきたい。	・授業参観や行事等は今年度も制限のあるものになり、児童の様子を伝える機会が限られていた。来年度は、行事等の伝え方の工夫はもとより、行事の内容を精選し、児童の安全に配慮しながら、できるだけ実施できるように努める。 ・行事予定等で保護者が参加するのは、できるだけ早くお知らせす
保護者との連携	(1)保護者からの連絡や相談に、適切に対応する。 (2)保護者と連携し、子どもの成長を支援する。	評価指数と活動計画 ・保護者アンケートの「学校(教職員)は、いじめや差別のない学校・学級づくりに取り組んでいる。」「学校(教職員)は、保護者からの相談に誠実に応じている。」については、評価指数を90%以上にする。 ・児童、保護者に対して、傾聴する姿勢を大事にする。	評価指数の達成度 ・保護者との連携については、2項目とも89.4%、91.6%と保護者の方から概ね肯定的な評価をいただいた。学校・保護者・地域の連携を大切にして行く。	B	・自尊感情を育てること、自己肯定感を高めることはとても大事なことである。外部人材等も活用しながら次年度は人権教育を推進してもよいと思う。	・児童一人一人の思いを大切にし、問題に対しの確に素早く対応することにより、組織としていじめや差別のない、保護者から信頼される学校づくりを推進する。 ・保護者からの連絡相談については、電話・連絡ノート等において迅速に行い、連携を密にしていきたい。
児童理解	児童理解に基づき、一人一人のよさが生かされる学級経営に努める。	評価指数と活動計画 ・保護者アンケートの「学校(教職員)は、子どものことをよく理解しようとしている。」については、評価指数を90%以上にする。 ・児童アンケートの「なやんだり困ったりしたときには、先生に相談している。」については評価指数を90%以上にする。 ・児童に対して、傾聴する姿勢を大事にするとともに、教職員一人一人が児童の強みやよさを見取ることができるよう、指導・支援に努める。	評価指数の達成度 ・保護者アンケートの「学校(教職員)は、子どものことをよく理解しようとしている。」と回答したのは89.9%であった。 ・児童アンケートの「なやんだり困ったりしたときには、先生に相談している」と回答したのは76.7%であった。 ・児童理解については、特に児童からの評価が80%に満たなかった。今後もしっかりと見取りを行い、児童理解に努めていく。	C	・「C」評価をつけた勇氣に敬意を表したい。期待している。 ・よく児童のことを見ていただいていると思う。引き続き一人一人の児童をよく見ていただきたい。	・教職員間の連携もより密にし、様々な角度から児童の強みやよさを見取ることができるよう、指導・支援に努める。 ・児童においては、先生に相談する割合については、児童とのコミュニケーションの活性化を図り、C、Dに回答する割合が0%に近づけるよう、安心できる居場所がある学年・学級経営に努める。
学力向上	(1)各教科の指導内容について、基礎	評価指数と活動計画 ・保護者アンケートの「学校(教職員)は、わか	評価指数の達成度 ・教職員は、不断の取組として指導方法の工夫・		・本校で20年以上続いている朝の15分の学習時	・進んで読書に取り組むが児童が90%以上になるように、学校図書館

	基本を明確にし、わかる授業の工夫をする。	<p>りやすい授業をしている。」については、評価指数を90%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの「学校で勉強していることがよくわかる。」については、評価指数を90%以上にする。 ・指導すべきことと支援すべきことを明確にして、児童主体の授業展開を心がける。 	改善に取り組んでいる。わかりやすい授業をしている、と回答した保護者は94.7%、児童は93.8%あり、工夫・改善の成果が出ている。	A	間「せきいんタイム」を有効活用して、これからも児童一人一人の学力向上の大事な時間としていただきたい。	経営等のさらなる活性化をとoshi、読書のよさを味わわせるようにする。
人権教育	<p>(1)差別や偏見・いじめのない学級集団づくりに努める。</p> <p>(2)よりよい仲間づくりを通して、思いやりの心を育成するように努める。</p>	<p>評価指数と活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの「友だちに意地悪やいじめをしていない」「意地悪やいじめのないクラス・仲間づくりにがんばっている」については、評価指数を95%以上にする。 ・一人一人をよく見て、強みやよさを伸ばすような日常的な声かけを意識し、自尊感情を高める。 	<p>評価指数の達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童において、「友だちに意地悪やいじめをしていない」と回答した割合は94.8%、「意地悪やいじめのないクラス・仲間づくりにがんばっている」と回答した割合は94.4%であった。思いやりや仲間づくりの意識の醸成が図られている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめのない学校にするために自尊感情を育てたり、自己肯定感を高めたりすることが大事である。外部人材等を活用した、いじめ防止の授業も考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者において、Cに回答した割合を0%に近づけるよう、児童に対して、特別の教科道徳の授業を充実させ、道徳教育の推進を図っていく。 ・教職員一人一人がさらに人権感覚を高め、児童の自尊感情や自己肯定感の育成に努めていく。
特別支援教育	<p>(1)通常の学級に在籍している特別な支援を必要としている子どもに対して、より適切な支援に努める。</p> <p>(2)特別な支援を必要とする子どもへの校内支援体制を整備する。</p>	<p>評価指数と活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートの「特別な支援を必要とする子どもへの校内支援体制が整備されている。」については、評価指数を90%以上にする。 ・全教職員が連携・協力して特別支援教育を充実させる。 	<p>評価指数の達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートの「特別な支援を必要とする子どもへの校内支援体制が整備されている。」については、100%の回答であった。 ・通常の学級に在籍している特別な支援を必要としている児童に対して適切な支援ができているかについては、教職員一人一人が努めていると自覚できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の児童の強みやよさを伸ばしてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が連携・協力し特別支援教育を充実させるとともに、特別な支援を必要としている児童たちに組織として対応していく。 ・児童に対して、特別支援教育に対する正しい理解と認識を育てるとともに、保護者への啓発にさらに努めていきたい。 ・特別支援学級担任が、各クラスへ行き、願いや思いを児童に伝える学級を増やす。
基本的生活習慣	子どもに基本的な生活習慣が身につくための働きかけを日常的に行う。	<p>評価指数と活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「お子さんは、礼儀正しく、あいさつがよくできている。」については、評価指数を80%以上にする。 ・児童会等を中心として、挨拶運動等を深化拡充するとともに教職員が率先垂範する。 	<p>評価指数の達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者において「お子さんは、礼儀正しく、あいさつがよくできている」と回答したのは83.7%であった。 ・児童において、進んであいさつができると回答した割合が87.0%、家であいさつが言えていると回答した割合は88.5%と高い。児童は、あいさつに対しての意識が高いことが見える。 ・教職員は、児童に基本的な生活習慣が身につくよう働きかけを、常に高い意識をもって行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ご飯」等に代表されるように、家庭との連携をより大事にしていきたい、啓発していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつのしかたの指導の充実を図るとともに「あいさつ運動」等の啓発をとoshi、児童自ら進んであいさつができるようにしたい。 ・児童には、引き続き食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう食育推進パワーアップ事業を継続して行ったり、食育の授業を行ったりすることにより、食に対する意識を高めていきたい。

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった